

# 心が通う未来のロボット体験



AIロボットとの会話

#ロボット体験  
#子ども中心のロボット実験  
#卒業研究

## DATA

- **主な連携先・メンバー**  
吹田市都市魅力部シティプロモーション推進室  
関西大学先端科学技術推進機構
- **活動地域**  
吹田市立千里山コミュニティセンター
- **活動期間**  
2022年度～継続中
- **活動資金**  
科研費 新学術領域研究（対話知能学）／日本機械学会活動ロボティクス・メカトロニクス部門技術委員会／地域連携活動に対する補助事業

## 目的

言葉による対話と非言語的な振る舞いを行うソーシャルロボットを子どもや一般来場者へ体験させ、主観評価により設計したロボット技術に対する印象を得ることを目的とする。

## 連携に至る経緯

生成AIの発展により、人らしい対話ができるようになった。この対話時の人間らしさを追求するには、テキストに加え仕草や表情等の非言語機能が鍵になる。この機能拡充には、ロボットを積極的に現場へ持ち出し、幅広い世代に問い掛けることが重要である。

## 活動内容

本活動は、総合情報学部瀬島研究室にて開発されたロボットに対して、小学生の主観評価を得ることを目的としている。そこで、吹田市シティプロモーション推進室と連携し、吹田市内の全小学校の児童に向けてチラシを10月に配布した。また、会場の大きさを考慮し、事前予約制とした。最終的に106名の一般来場者が参加した。

当日は、「視線を送る自動運転模擬車両ロボット」「リズムロボット」「生成AIによる会話ロボット」「性格診断ロボット」「涙を流すロボッ

ト」「ロボット同士のダンス教室」の6体のロボット展示を行った。さらに、「パロ」、「LOVOT」、「aibo」などの、触れ合えるロボットコーナーを設置した。来場者には、スタンプラリーとして、ロボットを体験させ、体験後にロボットの印象についてアンケートで回答させた。午前と午後の部の2部を用意したが、応募多数であったため、2部終了後に、自由開放時間を設けた。ここでも30人程度の子どもが来場し、触れ合いロボットを楽しむなど、有意義な活動となった。



リズムダンスロボットの実演



触れ合いコーナー



全小学校へ配布したチラシ

## 活動の成果

- ▶▶ 吹田市内の全小学校に、関西大学がロボット研究に取り組んでいることを周知できた。
- ▶▶ 保護者23名から活動に対するアンケートを収集し、83%が満足した結果であった。
- ▶▶ ロボット体験により、子どもの反応や主観の評価データの取得ができた。

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 今年は断念したが、毎年、他大学・企業へ呼びかけたロボット展示を継続する。
- ▶▶ 子どもだけでなく、高齢者施設との連携を充実する。
- ▶▶ 高学年と低学年の能力差に応じた課題を設計する必要がある。

総合情報学部 教授 瀬島 吉裕 Sejima Yoshihiro



専門はソーシャルロボティクス。人を惹き込むコミュニケーション技術開発に取り組む。2018年に「異能vationプログラム」に採択され、総務省公認の「変な人」。

